

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700807		
法人名	株式会社アルムシステム		
事業所名	グループホーム北札内ふれあい館1・2 (北札内ふれあい館1)		
所在地	中川郡幕別町札内新北町77-5		
自己評価作成日	平成 30年11月5日	評価結果市町村受理日	平成31年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;Jig_yosyoCd=0174700807-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;Jig_yosyoCd=0174700807-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者を深く理解し、ひとりひとりのニーズに合わせたケアを実践し、穏やかに過ごせるよう支援しています。ホーム内は四季を感じられるような環境づくりに努め、折り紙等で制作した作品の展示や写真などを飾り、ご家族にも楽しんで頂いています。体操や歩行運動を行うと共に利用者全員が参加できるようなゲーム等の遊びを行い笑って楽しめるように工夫しています。年に2回はバスでドライブ(夕食)に出かけたり、神社祭りに参加したりと毎月いろいろな行事を行っています。又、幕別町のボランティアの方々の来訪が月に1度あり、お互いの楽しみとなっています。外出は本人の希望に沿った場所に行けるよう支援しており、速やかに対応しています。お風呂は天然モール温泉を使用し、体の芯から温まると喜ばれています。職員はホーム内が明るく落ち着いた雰囲気になるように努め、丁寧な言葉遣いと優しい声かけを心がけています。又、年2回の避難訓練を実施し、災害対策に力を入れています。併設するシニアマンションの方々や地域の人々と連携がとれるよう交流を図り、安心して暮らせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は幕別町中心の北西に位置し、隣には母体法人が運営するシニアマンションがある静かな住宅地に立地している。法人は多くの福祉施設等を運営し、各種委員会(身体拘束廃止、虐待防止、事故等)を設置し、日頃から職員研修、災害対策などで事業所と連携し事例を共有しながら質の高いケアに努めている。居間は清潔で明るく、利用者の作品や写真、季節の花が飾られ、居室は全部南向きに面していて陽当たりが良く明るい。事務所と調理室からは利用者の動きが一望でき、利用者はテレビを観たり、歌を歌ったり、ぬり絵などをしながら安心して過ごしている。風呂は十勝川温泉と同質の天然モール温泉で利用者は楽しみながら入浴している。職員は理念の「優しい心、寄りそう心で支援するケア」を心掛け笑顔で丁寧に接している。利用者は地域の清掃やお祭りに参加したり、事業所の夏祭りを通じて地域住民との交流を深め、定期的に訪れる幕別町の登録ボランティアの訪問も楽しみにしている。年2回の避難訓練では隣接のシニアマンション住民の参加だけでなく、地域住民も参加して防災意識を高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念により、職員全体で地域密着サービスを目指して取り組んでいる。事業所独自の理念を作り、職員は理念を共有し、日々実践に努めている。	理念「寄り添う心で自己実現を支援」という言葉を廊下の壁面に掲示している。職員は、毎月の会議の都度理念を理解し、ケアに繋げている。また、家族にも説明されている。	理念が制定され16年経過しているため、現在の福祉や利用者の状況に合わせた理念を職員全員で考え掲示することを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域町内会に加入し、町内会行事やゴミ拾い清掃等に参加し交流を図っている。又、定期的に地域住民のボランティアの訪問があり、利用者に喜んでいただいている。	町内会に加入しており、清掃などの町内行事に参加したり、防災訓練では地域住民の協力を得られる等、地域とつながりながら暮らせるよう交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が行う夏祭りに町内会員を招待し、交流を図るよう努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し行事報告、計画及び事故報告をしている。行事参加をし、ホームの現状を把握し、意見交換をしている。又、身体拘束適正化委員会も行われている。	幕別町、地域包括支援センター、民生委員、町内会、老人会会長、家族などが出席して年6回開催している。会議では運営状況や行事内容、事故報告、防災訓練などを報告して意見や提言を得ながら運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価、外部評価等を提出し、運営上の疑問等には積極的に相談しケアの向上に努めている。	町役場とは密接な関係を持ち、常に情報交換をしている。特に生活保護受給者に関して毎月訪問助言指導がある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止推進委員会を設置し、全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し、社内研修において報告・意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。	母体法人が身体拘束廃止に関する委員会を設置して2ヶ月毎に研修会を開催しており、研修内容は全職員が情報を共有している。また、日々拘束について理解しながら拘束しないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で高齢者虐待防止委員会を設置し、全職員よりのアンケート調査を実施し、委員会で検討し、社内研修にて報告・意見交換を行っている。委員会は定期的に開催している。			

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について外部講師による社内研修及び外部研修を行っているが、制度上困難な事項が多く、活用されていない。今後必要に応じ対応したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前に利用者及び家族に閲覧していただき、契約時に説明し質問等を聞き確認してから契約を行う。解約時は次の生活場所の相談支援を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を定めている。ご意見箱を設置し、意見を受けている。家族の来訪時に会話を交わすように心がけ意見や要望を聞き、運営に反映させている。	家族が来所された時に職員は常に話しやすい雰囲気作りを心がけ、意見や要望を常に聴き入れるようにしている。利用者とは散歩や入浴の時の会話から得た要望などを職員で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は組織体制により上層部に上げていく体制で反映している。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、会議時等に話を聴くようにしている。また、職員から個別に意見や要望を聞く機会を心がけ、ストレスや不満の解消に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社での就業規則に定めている。又職員の評価を行い実績、勤務状況を把握し反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体で職員研修を実施。全員が研修を受けられる機会を確保している。外部研修にも積極的に参加し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくりや相互評価事業により評価を受け、サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人及び家族による施設見学を行い、面談説明し本人の要望等を聞き満足し希望された時点で入居をしていただくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては、利用料、サービス内容を説明し、要望等に対して出来るだけ満足していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に本人及び家族の生活歴、主治医、各関係機関の生活等を把握しアセスメントにより支援するサービス内容を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人のペースに添って自分に来ること、支援が必要なことを把握し、その人らしい生活をしていただける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が希薄にならないよう訪問をしていただき、又月一回のおたより等で利用者の現状報告親密な関係を築く様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人については出来るだけ疎遠にならないよう支援に努めている。馴染みの美容室やマッサージへの同行支援を行っている。	利用者の年賀状は職員が代筆で出したり、マッサージや美容室等馴染の関係が途切れないように支援している。友人や知人、親戚の面会機会も有り、利用者を大切に思う気持で対応や支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係を築くため、部屋の閉じこもりを少なくし、出来るだけリビングでも生活を多くお互いに支えあえる環境作りに努めている。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話、入院の場合は訪問等を通じて相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の尊厳を重視し、希望、意向を見極めるように努め、困難な場合はケース会議及び家族の意見も聞き対処している。	利用者の安心な暮らしを提供しながら、家族や利用者一人一人の思いや意向の把握に努め、様々なケアの場面に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の馴染みの家具、什器類等を利用し、出来るだけ生活環境の変化を少なくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身の状況を把握し、その人の有する能力を発揮してもらえるように努めている。又、外部からのマッサージも取り入れている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きながら、スタッフ全員でモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が6ヶ月毎に作成し、利用者や家族の同意を得ている。利用者の状態変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、体調変化等を記録しスタッフ全員が共有し、介護及び介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の要望等に応じ柔軟に対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域町内会に加入し、町内行事参加、ふれあい便りの配布等で地域住民の理解を得られるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が従来のかかりつけの医療機関での受診を基本に対応している。又医療連携をしている医療機関との連携を密にしている。月に1度、かかりつけ医の往診が受けられるよう支援している。	かかりつけ医での診察を大切に原則家族が受診に同行している。職員が受診同行する場合もあり、受診結果は家族に報告し、診療内容は個人記録に記載しながら全職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を把握し看護師に情報を提供し相談を受けている、又看護師は医療機関への情報を提供し適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、訪問面談等を行い受け入れ態勢を整え早期退院に向けての取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については本人、家族と話し合い、説明をお互いに方針を共有し支援に取り組むよう努めている。ターミナルケアの研修を行い、終末期への理解を深めている。	重度化と終末期の支援については、指針が策定されており、入居時に利用者と家族に明示している。重度化した場合は、利用者や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。また、看取りについては医療機関や家族と相談しながら取組む考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時及び事故発生時の応急手当については、社内研修等において関係機関による実践訓練の実施を随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災対策要綱を設置し法人全体で対策を行っている。各施設で年2回の防火防災訓練を消防署の協力により実施している。隣接しているシニアマンションとの協力体制を進めている。	年2回消防署指導の下で防災訓練を実施している。訓練では地域の協力と隣接のマンション住人の協力を得られる体制が整っている。備蓄は3日分確保されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉つかいには十分に気をつけた対応をしている。	利用者の気分や尊厳を損なわないよう声掛けには注意を払っている。特に、一人ひとりの性格・個性を理解しそれぞれの力に応じた声かけを行い、プライバシーや誇りを損なわない対応が出来るよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定をするには個々の能力に見合った選択の場を設け希望が叶うよう働き掛けをしている。時々、ご家族の協力もお願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の毎日の流れを優先することなく、希望に添った一人一人のペースを大切にするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容による理美容、又身だしなみについては個々の希望により気に入ったものにするよう支援している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の決まった食事ではなく、週に1度は利用者の希望に応じて献立をしている。又個々の能力にあった食事の準備、後片付けを手伝ってもらっている。	利用者の希望を聞きながら献立を作り、調理等を行ない、個々の能力に合った食事の準備や後片付け等手伝って明るい雰囲気ですべてを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量、栄養バランスに配慮している。水分量についても個々にチェックし確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食事後1人1人本人の能力に合わせて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。又本人の尿意、間隔等を配慮し、状態に合わせた下着、リハビリ、パットの使い分けをしながら自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表をもとにパターンを把握して、利用者のそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事については出来るだけ繊維質の多い食材に配慮している。又個々の身体に応じた運動をし健康状態を保つようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については一応入浴日を定めているが、個々の体調などに配慮しながら、利用者の希望に添った入浴が出来るよう支援している。天然モール温泉を利用している。	利用者一人ひとりの体調や希望等を尊重し入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。浴室には天然のモール温泉の入浴施設で利用者には好評である。入浴を嫌がる場合には少し時間を変えて職員も代えて再度誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、又その日の体調等に応じ休息、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する成分、目的及び副作用等を理解し、服薬に対する症状を把握し変化のある場合は主治医との相談による支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームにおいて個々の能力にあった役割分担をし、その人らしい豊かな生活ができるよう支援している。		

グループホーム北札内ふれあい館1・2（北札内ふれあい館1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ストレスをためないよう利用者の希望に添って散歩、買い物等を行っている、又行事計画により、外食、ドライブ等気分転換が図れるよう支援している。	日常的に事業所周辺を散歩し、馴染みの人に会ったりして常に気分転換をはかっている。又家族の協力を得ながら外出を楽しむなど、利用者の行きたいところに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いについては基本的に個人が管理することとしているが、個々の能力に応じて金銭管理の困難な場合はホームで管理支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への電話については本人の希望に応じていつでも連絡可能な支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分については、いつも清潔にし、採光が十分に取れるよう配慮し、季節の花を飾る等居心地の良い共用空間づくりに努めている。又、折り紙等の作品も展示している。	共用空間は明るく、季節を感じさせるような飾り付けされている。居間は家庭的団らんを醸し出し、くつろげるような配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはいつも利用者が集まり、それぞれ好きな場所で過ごせるよう支援している。又、会話やビデオを楽しめるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの家具等を持ち込み、今までの生活と変化がないよう配慮し居心地よく暮らせるよう支援している。	居室には、仏壇や使い慣れた家具を持ち込んだり、家族等の写真が飾られたり利用者思い思の部屋に居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立にした生活をするためできるだけ個々の能力を生かし自立した生活が送れるよう支援している。		